2020年12月10日発行（毎月10日発行）

2020年12月号　第816号（1953年３月18日第３種郵便物認可）

福音時報

目次

説　　教　クリスマスに現わされた神の御心 …… 栗田　英昭 ……1
教会の課題　「日本全国の視野に立つ伝道を
－大会伝道局のこれまでとこれから－」
…… 齋藤　　修 ……2
新約聖書学への招待　マタイ27章19節の新しい訳　第５回
…… 住谷　　眞 ……3
旧日本基督教会の草創期―植村正久を中心に⑿
植村正久と神道 …… 崔　　炳一 ……4
教会、この地とともに㉞　大垣教会
この地にある教会として …… 堀江　法夫 ……5
大信仰問答３
他派の教会から注目される中で …… 朝岡　　勝 ……6
み言葉に照らされて
主にすべてを委ねて …… 中山美知子 ……7
さんびかに生かされて
一番大事なこと …… 香川　基子 ……7
コロナ禍の中で⑧　礼拝は休止しないで …… 石田　直矣 ……8
教会ニュース ……8

説教

クリスマスに現わされた神の御心

「その子をイエスと名付けなさい。」「その名はインマヌエルと呼ばれる」。
（マタイによる福音書１章21～23節）

栗田英昭（くりたひであき）

「無傷な、よろこばしい連帯というものはこの世には存在しない」という一文を新聞で目にしました。これは石原吉郎（よしろう）という人が書いた『望郷と海』から引用されたものです。石原吉郎は大阪姫松教会で洗礼を受け、日本キリスト教団信濃町教会に転籍したということ、シベリア抑留（よくりゅう）の経験を文学的テーマに昇華（しょうか）した詩人であるということを知りました。本を取り寄せて読んでみますと、ところどころに「常に変わらず存続する孤独は、のがれがたく連帯の中にはらまれている」とか「連帯が解体すると単独な個人があとに残る」など、連帯に関する文がありました。彼は単独な個人が連帯を作るのでなく、共生しなければ生きていけない孤独が連帯を生む軸（じく）であると、収容所での共生の経験から主張しています。

一般に、連帯とは二つのものが結びついていること、あるいは二人以上の者が共同で行為すること、またはその結果に対して責任を負うことです。その結果に責任を負うともなれば、簡単に誰かと連帯するというわけにはいかないものです。まして生存がかかっているために連帯しなくてはならない場合、連帯する一人一人が緊張感を帯びることになります、しかし、収容所の中で生きるために共生し、連帯した彼も連帯が解体してしまうという経験をしています。

さて、神がクリスマスの日に人となられ、神が人と連帯してくださった目的は、何だったのでしょう。それは人間の罪が甚（はなは）だしく、「わたしはなんと惨（みじ）めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうか」（ローマ7:24）という現実の中にいたからです。人間同士慰（なぐさ）め合うことはできるでしょう、しかし、罪からの解放、つまり救いは人と人の連帯によっては成り立たないのです。私たちと同じ立場になってくださった神との、解体することのない連帯によってのみ人は救われるのです。

神が人となられた目的については、今日の聖書の個所の中に記されている幼子の二つの名前に現わされています。一つは、天使が伝えたイエスという名です。この名には「この子は、自分の民をそのもろもろの罪から救うものとなるからである」という理由があります。最後の晩餐で、イエスは次のように言われました。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」（マタイ26:28）と。この契約の血とは、十字架の死を通して罪人を贖（あがな）うために流される血のことであり、イエスという名が契約の内容を示しています。

また、イエスには、預言者が伝えた、もう一つの呼び名があります。インマヌエルです。この名は、「神われらと共にいます」という意味です。これは、この福音書の最後でイエスが言われた言葉でもあります。「世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（28:20）。つまり復活したキリストが天から送って下さった聖霊が、信じるものの中にいつも、どんなときにも共にいてくださり、神の国に入るまで導いてくださるということを示しています。

私たちはクリスマスに、二つの名によって現わされた神の御心を知って、「今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません」（ローマ8:1）と喜びの声を上げるのです。

（多摩ニュータウン永山伝道所牧師）